

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

オキナグサ (*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et J. Presl)



久保満佐子 (島根大学生物資源科学部) kubom@life.shimane-u.ac.jp

オキナグサは日本の本州から四国, 九州, 朝鮮および中国の暖帯から温帯に分布するキンポウゲ科オキナグサ属の多年生植物である²⁾。4月から5月に1~10本ほどの花茎を出し, その先端に鎌型で赤黒い花弁状の萼片を持つ花を1個つける。葉は掌状で深く切れ込み, 開花期には花も葉も白毛に覆われる。花は両性花で雌ずい先熟の自家和合性であり, 訪花昆虫に付着した花粉でも受粉が行われる³⁾。花粉は水に極めて弱く, 種子生産は開花時期の気象条件の影響を受けると考えられる³⁾。個体は開花後に成長し, 大きな個体では高さ30 cmほどになる。開花直後に種子が形成され, 5月から6月に白毛が密生する瘦果を風によって散布させる。和名「オキナグサ (翁草)」は, この瘦果のまとまりを老人の白髪に例えたといわれる。

宮沢賢治は著書「おきなぐさ」で本種を「うずのしゅげ」と呼び, 開花個体の姿を「黒孺子 (くろじゆす) の花びら, 青じろい銀びろうどの刻みのある葉」を持つと表現している。この作品で賢治はオキナグサの花は「まっ黒だ」という。一方, その下で生活している蟻たちは太陽の光を通して花を見るので, 「燃えあがるように真っ赤」な時があると語る。この花を嫌いな者はいないと紹介しており, 身近にある草花であったことを伺わせる。

オキナグサは主に放牧や火入れが行われてきた半自然草原に生育するが, 近年こうした草原が減少していることから, 環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類とされている (http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html, 2015年12月参照)。本種は有毒で牛が好まず食べ残すことから, 放牧が行われているシバ草地に多く, 放牧を再開することで個体数が増加したことも過去に報告されている¹⁾。河原などにも生育し, 大雨で増水して地上部が流失しても翌年には展葉する⁵⁾。河原では, オキナグサの地下部が残る程度の自然攪乱が発生し, 競合する他の植物が失われ, オキナグサの生育に有利となる環境が維持されてきたと考えられる。一方, 庭で栽培すると旺盛に繁殖し, 裸地やアスファルトの隙間などに侵入して分布を拡大することもある。オキナグサは中国大陸系の遺存種と考えられていることから, 開けた場所を生育地とするようである⁴⁾。

島根県の三瓶山麓にある西の原は毎年3月下旬に火入れが行われている半自然草原で, オキナグサの自生地である。西の原でオキナグサが生育している場所は, 生育していない



オキナグサの花



結実個体

場所に比べると火入れ後に焼け残ったリターが少なく裸地が露出しており, 夏にはススキを主体とした植物の群落高や植被率が低い。また, オキナグサの種子は採取した年に高い発芽率を持つ (シャーレの発芽実験で93%)。砂礫や真砂土, 腐葉土など, いずれの条件でも発生し, 当年の個体は小さいながらも秋まで生残する。このため, 個体の高さが30 cmほどにしか成長しないオキナグサは, 草原では生育の過程で他の種に被陰され, 定着が困難になっていることが予想される。

現在, 西の原では地元の関係者によってオキナグサの植栽活動が行われている。半自然草原の草花の保全には, その土地で行われてきた管理を継続する必要がある, その活動はその地域にゆだねられている。これまでの草原の管理方法が火入れや放牧, 採草など多様であったことから, こうした草原に依存して生育している種の保全には, 火入れに加え, 同じ草原内での草刈りや放牧などの多様な管理が必要になる。

引用文献

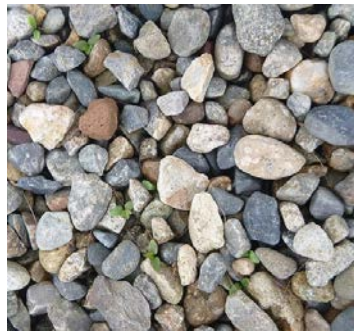
- 1) 内藤和明・高橋佳孝 (2002) 三瓶山の半自然草地における生物多様性保全, 日本草地学会誌, 48: 277-282.
- 2) 佐竹義輔・大井次郎・北村四郎・亘理俊次 (1982) 日本の野生植物 草本Ⅱ離弁花類, 平凡社, 318 pp.
- 3) 高橋佳孝・黄 双全・内藤和明・井出保行・小林英和・佐藤節郎 (2003) オキナグサの種子生産は天候に左右されやすい?, Grassland Science, 49: 46-47.
- 4) 高橋佳孝・内藤和明 (1997) 半自然草原の植物と保全管理, 種生物学研究, 21: 13-26.
- 5) 吉本敦子・野上達也 (2012) 石川県に生育する県指定希少野生植物種オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Ranunculaceae)の現状, 石川県白山自然保護センター研究報告, 39: 5-12.



庭で成長した個体



オキナグサの種子



オキナグサの発芽 (真砂土 (左), 砂礫 (中), ススキの枯草 (右))



島根県三瓶山麓にある西の原の火入れ (2013年3月24日)



植栽され開花した個体